

ひと足お先に
愛媛暮らしを
楽しんでいます。

私の移住体験談

島
暮らし

“農”業から“脳”業へ。 島ごとブランド化を目指して

2003年に
京都府から
1ターン

ふるかわ やすひろ
古川泰弘さん (39歳)
越智郡上島町岩城島在住



▼古川さんのホームページとブログはこちら
<http://www.k2.dion.ne.jp/~lemon-en/>
<http://blogs.dion.ne.jp/nengo/>

瀬戸内海に浮かぶ「青いレモンの島」上島町岩城島へ6年前に移住した古川泰弘さん。レモンをはじめとするかんきつや露地野菜を生産・販売する「Blue Lemon Farm」を設立し、こだわりの“脳”業を続けています。

もともと移住を考えていた古川さんは、京都からたまたまこの島に遊びに来た際、「青いレモンの島」といわれるこの島のレモンが、普段何気なく飲んでいた焼酎に入っていたと知って「ここだ!」と、島での起農を決意。移住に際して必要な情報を得ようと、当時の岩城村役場を尋ねましたが、後日送られてきた一通の手紙には、「農業で生計を立て、住み続けることは簡単ではありません」と予想外に厳しい答えが綴られていました。しかし、もともと負けず嫌いだっただ古川さんは「何が何でも住んでやる!」と思いを一層強くし、奥さんの由希子さん、お母さんの信子さんとともに、見切り発車ともいえるかたちで島へ移住しました。

京都では、生活環境の整った都会で何不自由なく暮らしていた古川さんご夫婦でしたが、島に移住した当初は住む家も

積善山の山頂から広島県因島を望む



なく、風呂やトイレのない納屋生活という厳しいスタートでした。

しかし、農業研修中に「転がって売り物にならないから」と農家の方にタダでもらった島のみかんが、県外で飛ぶように売れたという体験に遭遇し、これが島でのビジネスを確信するきっかけになりました。

今では、農業を志す若い世代や島暮らしをしたい方などの農業体験も受け付け、さらに今後は島の活性化を目指して、グ

リーンツーリズムや観光を促進するためのNPO法人「豊かな食の島 岩城農村塾」を設立しました。

移住にあたって大切なのは、その地に足を運び、地元の人のお話を聞くことに尽きると古川さんは言います。気候や住んでいる人の気質などはインターネットでは分かりません。

「厳しいといわれる農業も、消費者が求めるものをいかに効率よく作るか、試行錯誤を繰り返しながら、考えて儲ける“脳”業に昇華できる」という古川さんからは、島を元気にしたいという強い気持ちと、農業に賭ける熱いがひしひしと伝わってきます。



◀京都の料亭に届けている、こだわりのサンチュ畑の前で



◀平成20年6月15日、池袋で開催された農業人フェアに出展

